

日頃のお手入れについて

珪藻土壁材〈エコ・クィーン〉は、カタログでもご説明しているように、光触媒効果により汚れにくく、永くお使いいただける壁材ですが、日頃の生活の中では以下のような場面もありますので、ご参照の上、ご対応ください。

- **ホコリ汚れ** 表面に付着しているだけですので、軽くハタキを掛けて落とします。また、しゅくい風仕上げのように平滑な面の場合は、同じくハタキを掛けて表面のホコリを落とし、きれいな濡れ雑巾で拭いてください。
- **手あか・泥汚れ** スイッチ周りなど、手あかで汚れたところは消しゴムで落とせます。泥汚れは乾燥後、消しゴムで落とします。
なお、消しゴムで落とせないほど汚れ具合がひどい場合は、「油性のシミ」の方法で対処してください。
- **水性のシミ** お茶・コーヒー・ジュースなど水性のシミは、光触媒の作用で分解しますので、放っておけば数カ月で消えます。
(紫外線が多く当たるところは早く消えます)
- **油性のシミ** 水性のシミ同様すぐに吸い込みますが、分解は非常に遅く、水性のシミのように簡単には消えません。汚れが気になる場合は、表面の汚れをサンドペーパーやカッターの刃で軽く落とし、きれいな濡れ雑巾で表面の粉を拭き取ってください。
(深く削り取った場合は27ページ『キズ・へこみの補修方法』で補修)
- **カビ** 強アルカリ性の〈エコ・クィーン〉はカビが生えにくい壁材ですが、表面に有機物(石けん、皮脂、ホコリ、食品カスなど)が付着した場合、カビが生えることがあります。このような時は、消毒用エタノールを含ませたスポンジや布などで殺菌して、しばらく様子を見てください。殺菌が不十分ですと、再びカビが出ますので、再度エタノールで殺菌してください。
また、何らかの要因で、壁が湿潤状態となり、その状態が長期間つづいた場合、カビが生えることがあります。その場合は、湿潤状態になる原因を突き止めて対処する必要があります。

【 壁が湿潤状態になり、カビが生えてしまった例 】

- 冬季、金属製の玄関ドア枠やペイント塗装の木製窓枠の表面で結露し、その結露水をエコ・クィーン壁が吸いつづけて湿潤状態となり、そこにカビが生えたお宅があります。
- マンションで、屋外に接する壁面側に家具などをすき間なく設置し(空気が動かず、壁が冷えた状態がつづくこととなります)、ほとんど換気を行うことなくガスストーブや石油ストーブ(いずれも燃焼時に水分を放出します)を長時間使用する生活をつづけたために、壁面下部が湿潤状態となりカビが生えてしまったお宅があります。

※浴室に施工する場合、石けんカスや皮脂などが付着しやすい壁面下部への施工はお避けください。また、浴室使用後は換気を十分に行ってください。